

震災の教訓を忘れない。
被災経験者が重視する「防災対策」が明らかに
〈花王 生活者研究センター調べ〉



東日本大震災から7年。その後も大きな被害をもたらす地震や災害が日本各地で発生し、自然災害の増加を実感している人が増えている一方、被災地であっても防災意識の薄れを感じている人もいます。

花王株式会社「生活者研究センター」(※1)では昨年、震災の経験から今でも水道水や風呂の水を汲みおきしている仙台市の方の暮らしを記事にしてお伝えしました。その記事を読んだ東北や熊本の被災地の方から、「日頃の備えの重要性を他の地域の人にも伝えたい。(岩手/40代女性)」「対策していなかったことを後悔した。(熊本/30代男性)」などの声をいただき、それを受けて、「暮らしの研究」読者に家庭での防災対策のアンケートを実施(2017年12月)。被災経験の有無で生じる実施率の差や、被災経験者が日頃から実践している防災対策が明らかになりました。

【主な調査結果のポイント】

- 被災経験の有無で差が出る防災対策
- 被災経験者がしている防災対策の内容
- 実際に役立ったこと、備えていること

【調査概要】

「家庭での防災対策」

調査期間：2017年12月

調査方法：インターネット調査

調査対象：『暮らしの研究』読者

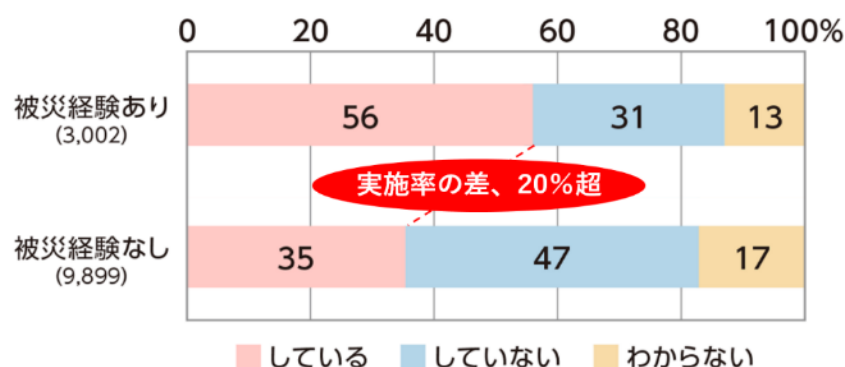
回答者数：12,901人

●被災経験の有無で差が出る防災対策

今回のアンケート回答者の23%が台風、豪雨、地震、噴火などの自然災害による「被災経験がある」と回答。

家庭で防災対策をしていると回答した人は、被災経験の有無にかかわらず、回答者全体の40%の実施にとどまりました。しかし、被災経験者で防災対策をしている人は56%と半数以上で、被災経験のない人の35%とは、かなりの差がみられました。

■家庭での「防災対策」実施状況

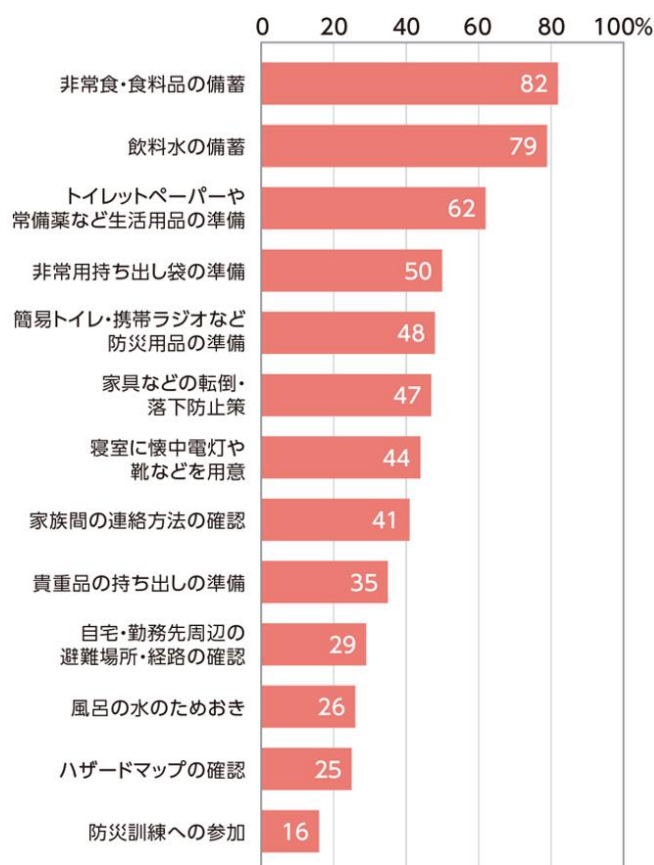


2017年12月「くらしの研究」読者12,901人
(花王 生活者研究センター調べ)

●被災経験者がしている防災対策の内容

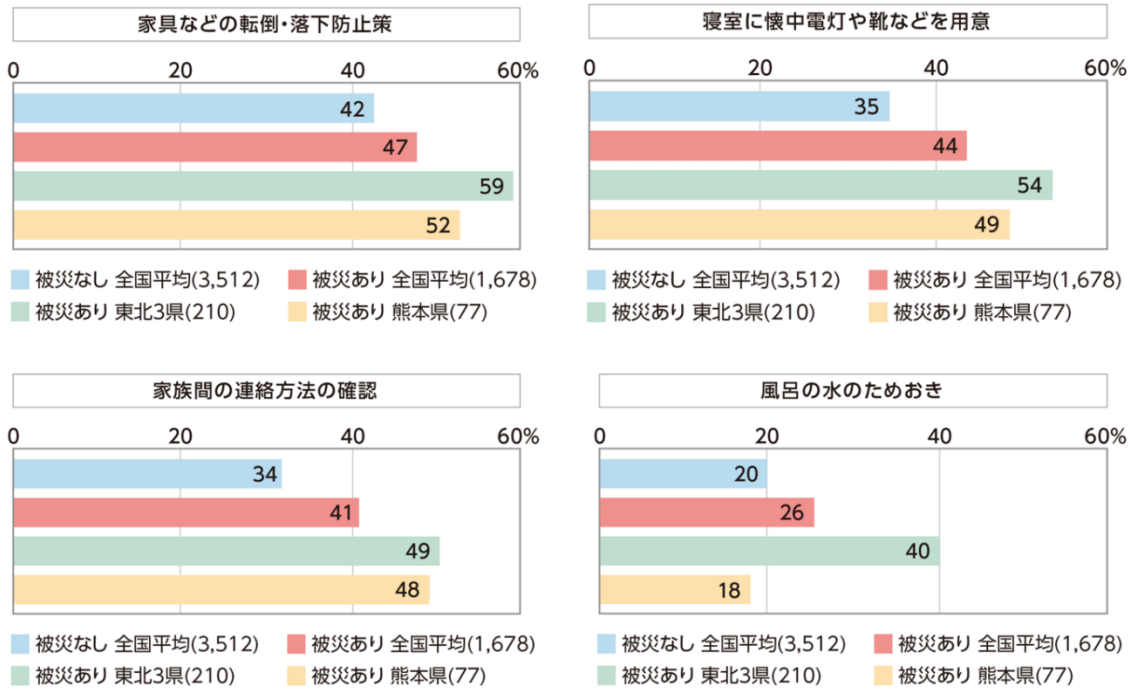
自然災害による被災経験者が家庭で行っている防災対策は、食料、飲料水などの備蓄をはじめとする、さまざまな内容が挙がりました。

■被災経験者が家庭でしている防災対策



2017年12月「くらしの研究」読者
自然災害による被災経験があり、家庭で防災対策をしている人1,678人(複数回答)
(花王 生活者研究センター調べ)

■被災経験別 防災対策の実施率（項目抜粋）



(花王 生活者研究センター調べ)

大きな震災を経験した東北3県（岩手、宮城、福島）や熊本県では、「家具などの転倒・落下防止策」や「寝室に懐中電灯や靴などを用意する」、「家族間の連絡方法を確認する」などが震災経験のない人の全国平均を大きく上回り、災害経験があるからこそ対策している様子がみられました。また「風呂水のためおき」は東北3県で引き続きおこなわれていることもわかります。

●実際に役立ったこと、備えていること

被災経験があるからこそ伝えられる経験者の声を挙げてみました。

<用意していたから助かった！>

携帯の懐中電灯は、電池消耗が激しく、専用の懐中電灯は必須。ラジオは情報収集に本当に有効で、たまに流れてくる音楽に癒されました。
(熊本/20代女性)

貴重品や子供の保険証、母子手帳などをまとめていたので避難までの時間短縮ができました。
(島根/30代女性)

真冬に停電で、ポータブルストーブとロウソクが役に立った。これがないと気温氷点下の地域なので凍死するし水道も凍る。
(北海道/40代女性)

水に流せるティッシュやウェットティッシュがあったことが良かった。水が不足し、トイレを流せないこと、手や食器類を毎回洗えなかったため。
(北海道/40代女性)

<困った経験が、備えるきっかけに>

オール電化は停電になると、水も出なくなり、炊事、洗濯、お風呂ができなくなりました。以来、風呂水をため、保存食を常に揃えています。

(岩手/40代女性)

物が倒れ、食料がなく、とても辛い思いをしました。靴を部屋に置き、家具を固定、防災グッズ、非常食の保管、緊急時の集合場所などを考えるきっかけになりました。(山形/30代女性)

地震、津波で被災し、食べるもの飲むもの着るものすべてに困ったのですぐに持ち出せるように備えています。

(岩手/20代女性)

ガソリンがなくて大変困りました。スタンドにもないし、探している最中にもガソリンが減るので最悪でした。今は給油メーター半分になると満タンにしています。

(福島/40代男性)

<役立つことに気付いた！>

水道が出ない時に井戸水を提供してもらったり、商店の方から必要なものをいただいたり、町内会も大切だと思いました。

(宮城/30代女性)

使い捨てカイロで暖を取り、布団にくるまってしのぎました。たまたま家にあつたものでも、防災グッズになるんだなあと感じました。

(神奈川/30代女性)

災害を経験し、近所付き合いが良い方に変ってきている。挨拶をしたり、声を掛け合う大切さを実感しました。

(宮城/50代女性)

自分一人ではどうにもならない。家族、そして近所の人たちとの協力体制があることが一番防災には役に立つ。

(宮城/60代男性)

自然災害はいつ起こるかわかりません。ふだんの生活の中でできることから防災対策を始め、それを定期的に見直していきましょう。「自分たちの経験を他の地域の人にも活かしてほしい。」という被災した人たちの声を自分ごとと捉えて、備えを始めてみませんか。

自分の身に起こらないと思いがちですが、ここなら大丈夫、今までこんなこと起きたことはない、が通用しないということをたくさんの人に知ってもらいたい。

(宮城/20代女性)

地震はいきなりきます。常に考えるのは無理なので、意識できるように目につくところに持ち出し袋を置いています。押入れに入れておいても、地震がきたら押入れは開きません。

(熊本/20代女性)

詳しい情報はこちら

くらしの研究「～特集～東日本大震災を経験して」

<http://www.kao.co.jp/lifei/feature/03.html>

(2018年3月掲載)

※1 花王株式会社「生活者研究センター」 <http://www.kao.co.jp/lifei/about/>

「生活者研究センター」では、花王グループの使命である「よきモノづくりを通じて人々の豊かな生活文化へ貢献すること」の実現をめざし、生活者ひとりひとりの暮らしを見つめた生活者研究を行っています。生活現場での観察と対話を重ねながら、行動に表れない本音、説明できないこだわりなど、行動の裏にひそむ「おもい」まで読み解いて、課題を発掘し、商品やコミュニケーション開発に活かすとともに、生活者研究のウェブサイト、花王「くらしの研究」から、広く社会に発信しています。

花王「くらしの研究」 <http://www.kao.co.jp/lifei/>

■本リリース（MK ニュース）に関するお問い合わせ先



花王株式会社 商品広報センター

〒103-8210 東京都中央区日本橋茅場町1-14-10 TEL:03-3660-7259 / FAX:03-3660-7848

<http://www.kao.com/jp/> ©Kao Corporation

※本資料記載の記事・写真の無断転載・複写を禁じます。リンク先は本件掲載時の情報であり、予告なく変更になる場合がございます。